

三三三案内

●サントリーミュージアム「天保山」ギャラリー「インディペンタル・アフェア」の作品を通して、現代の新しい美意識を探り、日常的な感覚の中に潜む新たな価値観や感覚を呼び起こす。難解とされる現代アートの入門ともなるよう鑑賞ツールも充実。五月十日まで開催(月曜休館、四月二十七日、五月四日は開館)の十日半、十九時半(最終入場十九時)。当日大人千円。地下鉄大阪港駅徒歩約五分。六五七〇〇〇。

●交通科学博物館「旅ゆけ」鉄道でつづる旅と観光をパネルで。先日引退した「富士・はやぶさ」ヘッパに懐かしい昭和の旅を再現。①歴史「鉄道開業から昭和中期までの旅行の広がり」を文字、レジャー、団体



神原澄人「浮楼」2005年 © Sumitomo Sakakibara



以上四百円、四歳〜中学生百円。JR弁天町駅すぐ。六五八一一五七七一。

●港図書館の催し ①子ども読書の日記念事業「春の子ども会」大型絵本読み聞かせやパネルシアター等。四月二十五日(土)十時半〜十一時半、港区民センター二階。当日先着順、無料。②図書展示「天文の本」今年度の世界天文年因

語、旭堂南麟(上方講談)奏、サン・サンスの交響詩「死の舞踏」では同フィッセルのコンサートマスター岩谷祐之がヴァイオリン独奏。四月二十九日(水祝)十五時からザ・シンフォニーホールJR福島で。十時四十分から指揮者ブレイク。S五千円、A四千円、B三千円、学生千円(全席指定)。六五七七一。

●関西フィルハーモニー管弦楽団「第210回定期演奏会」美の国フランスの音楽を同フィル首席指揮者・藤岡幸夫「写真」の指揮で迎える。管弦楽の魔術師ラヴェルの作品から「ラ・ヴァルス」舞踊詩とバレエ音楽「ダフニスとクロエ」第二組曲。ラロのチェロ協奏曲では名匠・堤剛がチェロ独奏。

●「シチリアーナ」、日本の歌「荒城の月」他。最初の十分間が総会。四月二十五日(土)十四時からオークホール(弁天町オーク2番街ハープ館六階)で。高校生以上千五百円、中学生以下八百円。要電話予約。六五七四一七五五六。立。アートスペースZottoA「鉛筆画展」四月二十七日〜五月五日。十一時十八時(火曜十六時まで)、水曜定休。入館無料。弁天町四一四(ビラック西五十裏通)六五九一九七九七七。



『蟹工船』の一場面

●ステム・ギャラリー「海岸建物物語4」建物とその歴史を愉しむ恒例写真展。今回は天保山赤レンガ倉庫など色んな赤レンガ建築。商船三井築港ビル一階(地下)「地下」ギャラリー(地下鉄大阪港駅①出口から海へ歩五分)で五月十五日まで(日祝と四月二十五日、五月二、九日の各土曜休)、入場無料。写真展等の関連企画や講演等の特別企画も。六五九一九二八七七。http://www.jkgraphstudio.biz/stem-gallery/

●シネ・ヌーヴォ「蟹工船」の感想とプレゼンテーションを20日必着で港新聞へ。サントリーミュージアム「インディペンタル・アフェア」(上段に案内)招待券をベア5組に。交通科学博物館(上段に案内)招待券をベア3組に。あんがいおまる一座「上海1930」(7面に案内)招待券をベア2組に。藤かほり新曲CD「男の夢」「人生荒野」(6面に案内)を2名様に。川奈ルミ新曲CD「東京大陸」「火の鳥」(6面に案内)を2名様に。シネ・ヌーヴォ「蟹工船」(右に案内)招待券をベア2組に。

●「旅と鉄道」をテーマにした昭和の旅を再現。①歴史「鉄道開業から昭和中期までの旅行の広がり」を文字、レジャー、団体

●「旅と鉄道」をテーマにした昭和の旅を再現。①歴史「鉄道開業から昭和中期までの旅行の広がり」を文字、レジャー、団体

●「旅と鉄道」をテーマにした昭和の旅を再現。①歴史「鉄道開業から昭和中期までの旅行の広がり」を文字、レジャー、団体

●「旅と鉄道」をテーマにした昭和の旅を再現。①歴史「鉄道開業から昭和中期までの旅行の広がり」を文字、レジャー、団体

●「旅と鉄道」をテーマにした昭和の旅を再現。①歴史「鉄道開業から昭和中期までの旅行の広がり」を文字、レジャー、団体

●「旅と鉄道」をテーマにした昭和の旅を再現。①歴史「鉄道開業から昭和中期までの旅行の広がり」を文字、レジャー、団体

●「旅と鉄道」をテーマにした昭和の旅を再現。①歴史「鉄道開業から昭和中期までの旅行の広がり」を文字、レジャー、団体

●「旅と鉄道」をテーマにした昭和の旅を再現。①歴史「鉄道開業から昭和中期までの旅行の広がり」を文字、レジャー、団体

平和のため戦争体験語り継ごう



「前号あらずし 昭和二十一年。十六歳の私は西成区天下茶屋に住み、学徒動員で勤労に就いていた。三月十三日深夜、空襲警報を受け、父は防空主任として隣組を防空壕に避難させ、私は父と行動を共にした。空一面は二百数十機のB29で覆われ、その物凄い光景に私は息を呑んだ。」

照明弾で昼の明るさに驚いている間もなく次の瞬間、バアッと急に辺りが曇った。真っ白になり、

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

焼夷弾の雨で火の海 灯火管制も訓練も役立たず

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ

「何や!」と思っ